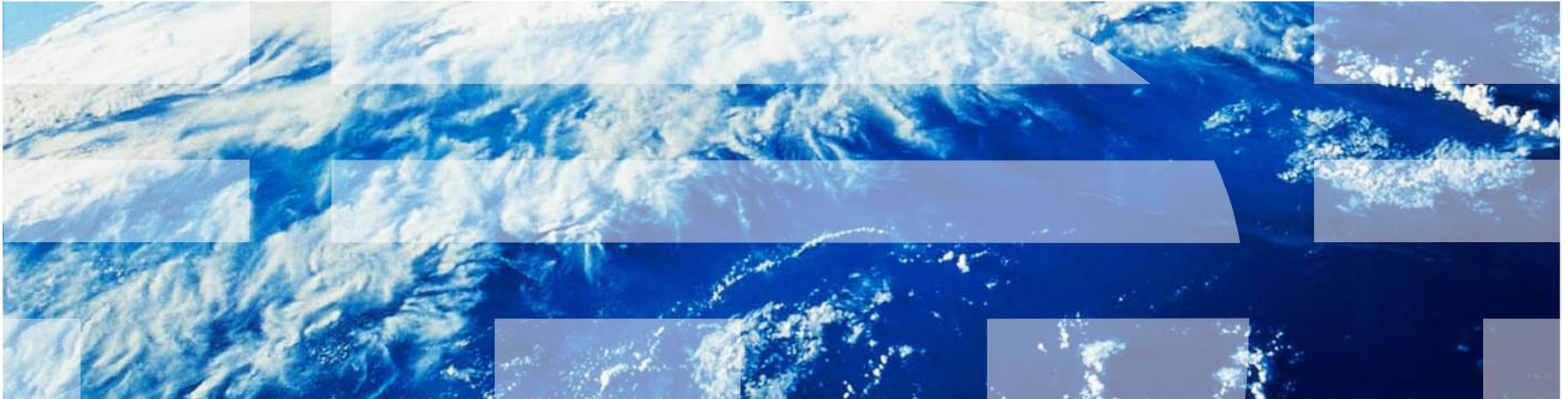


# JCC第4回定時総会 「水産業クラウドWG」活動のご報告

WG主査  
日本アイ・ビー・エム(株)



# 1.活動概要

## 目標

- ・ICT、クラウドを活用した新しい水産業ビジネス・モデル（スマーターフィッシュ）を構築し、日本の水産業の高収益化、ブランド競争力の向上に資する。
- ・消費者にとって安心・安全な「水産物」の流通、提供の仕組みを検討し、具現化する。

## 課題認識

水産業は、日本の沿岸部地域における重要産業であり、長い歴史の中で日本固有の食文化を支えてきた産業である。近年の食文化の多様化や震災の影響が残る状況において、水産業の復興及び強化の実現が求められている。

## 具体的検討項目

### STEP1:情報収集

- ・漁業関係者、水産加工会社、物流会社、海外協力団体等から、現状の業務状況と課題をヒアリングしまとめる。あわせて、消費者からの魚文化への意見・要望の情報収集を行う。

### STEP2:課題検討

- ・ヒアリング結果をもとに、クラウドサービスを利用する領域と方針を検討する。
- ・サービス普及推進の方法について検討する。

### STEP3:具体化

- ・ICT、クラウドを活用したスマーターフィッシュ実現のための実証事業の検討
- ・次世代水産業ビジョンの策定

## 導入効果(目標)

- ・日本の水産業における高収益化、ブランド競争力の向上を通じて、経済の活性化を図る。

## 2. 活動の振り返り

- 2011年 8月 水産業クラウドWG設立承認
  - 9月12日 キックオフ会議実施 「今後の活動の目的と体制、内容を確認」
    - 3つのサブ・ワーキング グループに分かれ「情報収集」「課題検討」を開始。
      - SWG1: 「次世代型日本の水産業ビジョン検討」
      - SWG2: 「魚価を上げる為の水産業の流通/サプライチェーン検討」
      - SWG3: 「新しい水産業のマーケティング検討」
  - 12月6日 中間報告会実施
    - 「各SWG活動報告及び今後の活動方針の全体共有実施」
  - 12月22日 第3回JCC総会にて活動のご報告
  
- 2012年
  - 4月10日 「H24年度 水産業クラウドWG全体会議実施」 44名参加
    - 新たな参加者紹介及び「今後の具体化」に向けての検討
  
  - 「WGメンバーによる 関係者への事業紹介及び実証に向けた取り組み提案」実施
    - 5月2日 宮城県石巻市 雄勝町 オーガッツ 「対談」 主催:三重大学
    - 6月13日 岩手県久慈市 久慈漁協 「車座会議」 主催:岩手大学
    - 7月17日 農林水産省食料産業局 産業連携ネットワーク交流会  
「ICTを活用した6次化産業の推進について」 主催:IBM

## 2-1. 宮城県石巻市 雄勝町 オーガッツ 「対談」



対談の様子をNHKが取材  
三重大 勝川先生、OH GUTS 伊藤代表



- 水産業クラウドWGの活動紹介とクラウドを活用したトレーサビリティ・システムの構築を提言。  
→
- ソーシャルネットワーク(twitter)を活用しての現場の状況及び「こだわりのストーリー」の発信
- 牡蠣を含めた湾内での養殖産品のセールスプロモーションと安心・安全情報（放射能モニタリング・貝毒検査など）の共有について
- クラウド利用については ビジネス規模拡大にあわせ「費用対投資効果」をアセス。

## 2-2. 岩手県久慈市 久慈漁協 「車座会議」



久慈漁協の皆さんと  
鮮魚の達人 山根代表  
築地千秋 小川店主



- ITやクラウドを活用した新しいビジネスについて意見交換  
→
- 値段のつかない魚にどう価値をつけられるか？ 食べ方、食文化の違いを活かすなど「産地-消費地情報交換で付加価値をあげるなどを議論
- 久慈漁協では量はあまり出ないが多様な魚が揚がる。これらを旨く流通させる仕組みが必要。
- 第二回の車座会議を計画。生産現場(漁同行・市場)見学などを通じ可能性を検討することに。

## 2-3. 農林水産省食料産業局 産業連携ネットワーク交流会 「ICTを活用した6次化産業の推進について」

**テーマ:ICT基盤を活用した6次産業化の推進について**

日時: 7月17日(火) 14:00~17:00  
会場: 日本IBM本社(東京都中央区箱崎町)  
7階ソリューションセンター シアター

参集範囲: 農畜水産業者・団体、地方自治体、研究、金融機関  
参加人数: 30名程度

**趣旨:**  
日本IBMでは、グローバル基準のクラウド型ICT基盤(コマース基盤、生産・流通トレーサビリティ基盤)を活用し、農畜水産物の生産者から消費者までのサプライチェーンに情報を載せて高付加価値化することで高収益を確保する6次産業化のビジネスモデルを検討しています。  
特に、地域の農産物、畜産物、水産物などを包括的に取り扱うことで付加価値をつけ、地域の活性化に貢献できるのではないかと考えており、関係する会員の皆様と効果的な活用方法に関する緊密な意見交換を行いたいと考えています。

**議事:**

1. 日本IBMの考えるICT基盤と活用方法の紹介
2. 活用事例の紹介  
(株) 釧路丸水 近藤社長  
釧路でのスマーターフィッシュ実証実験や北海道開発局が行ったKERAAN釧路の実証実験などに参加されており、ICTを活用した新たな可能性をお話いただきます。  
<http://www.marusui.co.jp/prcorp.html>
3. 意見交換  
論点:
  - ・ICT基盤の効果的な活用方法
  - ・ICT基盤を活用した高収益化のビジネスモデルの検討
  - ・地域協同による包括的なICTの活用方法

農林水産省食料産業局産業連携課 産業連携ネットワーク事務局

### ICT活用事例の紹介 (株) 釧路丸水 様



## 4. 今後の活動

- 「水産業クラウド」の認知度向上活動の継続。
- ビジネス・モデル(事業化)策定に向けたEco-System (エコ・システム= 推進体制)づくり。
- オープンで標準的な「情報統合基盤(仮称)」の構築と地域での実証事業。
- 「水産業クラウドの機能」の早期実現を図る。

# 水産業クラウドの機能(想定図)

